

## 編集後記

2005年11月から検討を開始した『慶應義塾大学メディアセンター中期計画 2006-2010』がまとまり、2006年11月にWebで公開した。そこには従来、明文化されていなかった「メディアセンターの使命」、「メディアセンターの将来像」も合わせて検討し、その結果も含まれている。今号には、これらと、行動計画の一部を掲載した。メディアセンターからの利用者へのメッセージとして、改めて参照していただきたい。

Google 旋風が、とうとう日本にも上陸した。7月6日、慶應義塾はGoogle社のブック検索図書館プロジェクトと提携するというプレスリリースが行われた。メディアセンターにとってはエポックメイキングな出来事であり、今号でタイムリーな報告をめざすべく、プレスリリース後に杉山所長に短期間で執筆してもらった。なお、本事業は慶應義塾の創立150年記念事業の一環であり、そのほか、特集に含まれている「メディアセンターにおける150年記念事業—記念写真と福澤著作コレクションデジタル化—」も同様である。

機関リポジトリが花盛りである。慶應義塾大学の機関リポジトリ(KOARA)は、国立情報学研究所で行われている次世代学術コンテンツ基盤構築事業(CSI)の委託助成を受け、基本システムとして理化学研究所脳科学総合研究センターが開発したXooNIpsを採用した。この結果、研究者向けとして開発されてきたコンテンツ管理システムであるXooNIpsに、機関リポジトリの運営に必要な機能を付加、公開したとして、本学が担当した「XooNIps Library モジュールの開発」が平成18年度CSI委託事業の優良実践事例の一つに選出されたことを、申し添えておきたい。

本誌は、メディアセンターから慶應義塾大学関係者に対する発信であるが、そこに留まることなく広く他大学図書館などにも寄贈している関係から、図書館界に対する発信でもある。さらに第10号(2003)からは、Webでも発信している。

<http://www.lib.keio.ac.jp/publication/medianet/>

(村上 篤太郎)